

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「困った時に地域住民が連帯し、助け合い、地域社会を豊かで住みよくなるための民間非営利の福祉活動を行う」ことを目的とした市民運動の事業を行う法人のグループホーム。「食事作りや誕生会、季節の行事など、地域の人との交流や自然とふれあいながら共同生活の楽しさや喜びが感じられる暮らしを支援します。」と理念が作られている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>相談室に掲示し常に目に付くようにしてある。</p>	<p>○ 合言葉、またはキャッチフレーズ的な言葉を作り、常に理念を日常的に話せるようにして行く。それを、相談室に掲示し、今迄以上に職員、家族に浸透させていく。また、会報につねに掲載。カンファレンス毎に皆で読む。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>家族には入居時説明している。見学者、来訪者、また、他施設訪問時等に理念が掲載されているパンフレットを渡し、説明している。開所時、地域住民の方に説明会を開き、又その後も老人会の要請で、説明会開催。</p>	<p>○ 地域推進会議の運営時や委託事業の協力等の中で浸透させたい。また、家族会開催時に浸透させる。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>自治会回覧板届け・散歩・買物等、隣近所の方々と挨拶し、顔見知りになっている。ゲートボールしている方や車椅子で散歩している方に声かけしてもらっている。入居者さんが迷子になった時に、商店会の方が気づいてくれた事もありました。</p>	<p>○ 今後は、気軽に立寄ってもらえるようになるために、催しを企画して団地のお年寄や、保育園にも声をかけ一緒に楽しむ機会を設けて馴染んでいけるようにしていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>保育園の行事、商店会フェスティバル、盆踊り等参加させていただいている。又ホームの敬老会には自治会有志による余興の参加もあり、交流を図っている。散歩途中の商店会の方との挨拶、地元老人会の方との挨拶は日常的にされている。地域の方、理事の知り合いの方が行事の時、手話術、歌など披露してくださっている。また野菜・お菓子・紙パンツなどの差し入れ、提供してくださっている。</p>	<p>○ 入居者1人1人の気持ちや体調等にあわせて、多くの地域活動に参加できるよう努める</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行政の認知症予防事業の協力の声がかかったので協力していくようにしている。また、認知症と思われる方の徘徊があった時、対応したことがある。しかし、今までの3年間は、実際には自ホームの運営をしていくので1杯だった。	○	今後はホーム内で行事の時などに老人会、保育園などに声かけし、機会をつくりたい。また、運営推進会議・自治会老人会・行政との繋がりを深めていって、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、法人・管理者が職員に説明し、全員が自己評価を記入している。自己評価はユニット毎に改善会議を開催し、まとめをしている。	○	評価で指摘された内容について具体的な方策をたて改善して行く。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は8月8日に第1回開催予定。	○	報告や話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所を訪問して相談、また電話/FAXでの相談をしているが行き来するほどではない。緑区の場合は運営推進会議は、行政が参加していない。地域包括支援センターのケアマネジャーがオブザーバーで出席の方向。	○	横浜市グループホーム連絡会ブロック会で相談していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人理事長・事務局長・管理者・ケアマネジャーが制度を学ぶ。家族の相談にのる、家族に相談窓口・相談日の紹介をしている。また、パンフレットを家族に紹介して制度のお知らせをしている。	○	職員や家族に今後、学ぶ機会を作る。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日中・夜間とも防止に努めている。	○	今後、全職員で「法」そのものを知り学ぶ機会を作り、周知徹底していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退去時、必ず、説明し納得してもらっている。	引き続き行う
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で出た苦情・不満を聞き、引継ぎやカンファレンスで相談し、運営に反映させている	引き続き、不満・苦情を運営に反映させよりよいサービスをおこなっていく
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの生活についてきずいたことを利用者の暮らしぶりや健康状態について家族等にその都度報告している(月1回定期報告している)	引き続き行う
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、苦情相談窓口と担当の紹介をしている。家族等が事務所へ来訪した際、苦情を管理者や職員に表せる機会を作っている。またそれらを運営に反映させている	引き続き行う
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人理事長・事務局長、管理者は毎月の職場・法人合同会議に出席し、そして事務局長・管理者は毎月のカンファレンスに出席し、職員の意見提案を聴く機会がある。	○ 聞く機会があることを職員全員に周知徹底させ議題に毎回載せ、今迄以上に職員の意見を反映させていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	主任が中心になり職員間で話し合いを進め勤務調整に努めている	○ 必要に応じ、傾聴、移動、買物同行ボランティアの協力を受けているが、今以上に協力体制を強めていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最小限に控える努力をしていると思う。離職は控える努力をしているが多少生じている。異動・離職とも変わる場合はできるだけ利用者へのダメージを防ぐ配慮している。全職員が同一ケアする様に考慮しているので強いダメージはあまり無いと思う。法人で労働条件検討委員会を設置し、離職を防ぐ検討をしている。	○ 運営者、管理者は、気持ちよく働けるように、職場づくりを引き続き現在の期間を有効活用し、努力して行く

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人に対しては、日常不安なく仕事ができるよう、現場研修期間を設けている。その際質問はその場で即答し、安心してもらっている。また各資料等配布し勉強してもらっている。研修の参加も進めている。勉強会も不定期に開催。研修に積極的に参加している職員も複数いる。スキルアップの向上努めている。	○ 計画的な研修と現場の必要度に合致した研修に取り組みたい。職員に偏りがないようにしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市グループホーム連絡会・ブロック会等には必ず出席。交流研修を実施している。機会をもち相互訪問等の活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている	○ 引き続き行う
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休息時間の確保。忘年会・歓迎会等開いている。有休が取れるよう努力している。こころの相談室の掲示	○ 希望どおりに有休がとれるスタッフ体制をとる。また、長期休暇が取れるように、職員間で協力しあって行く。管理者・法人はいつでも相談や話を聞く体制である事を表明する。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の特技・資格・興味など活かし、責任を持った仕事を持つことにより、向上心に繋がって行く仕事出来るよう配慮していると思う。	引き続き努力する。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応。受け止める努力をしている。家族の方に尋ねたりしている			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、本人・関係者から詳しく聞き、情報を集める。必ず、ホームに見学に来ていただいたり、相談者の住まいを訪問している。センター方式のシートを活用して、受け入れの体制を整えている。受け入れまで職員に情報の共有を計り、職員全員であたたかく迎え、話を良く聞きひとつひとつ不安をのぞき安心出来るようにしている。	引き続き行う
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ずホームに来ていただいて見学し、相談をうけている。また、担当ケアマネージャーと連絡を取り合い、安心して入所できる配慮をしている。	引き続き行う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームを選んでいただいた経過等をお聞きしながら、対応している	○	引き続き行う
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者様の状況に応じて、家族に訪問してもらったり、連絡しあって、家族と相談し、落ち着いていただく努力をしている。	○	引き続き、常に本人の意思を尊重し家族等にも相談の上実施していきたい
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の会話、行事を通し、得意な事を知り、手伝っていただいたりして皆で楽しませていただいたりしている。調理・配膳・下膳・掃除・洗濯物たたみ。一緒に会話、共感、礼をいう等関係を築いている。常に目上の方として敬う気持ちを忘れない配慮をしている。	○	引き続き、常に本人を介護される一方の立場に置かれない事を心がける。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者さんを職員・家族が協力して支えることが出来るよう、生活の様子が常にかかるよう情報を共有している。ホームへ面会・病院への受診・買物・行事への参加など声かけし、生活を共にする機会をつくっている。	○	行事への参加の機会を増やす、また家族会を活発にしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人が安定した生活をホームで送られ、その事により家族も安心される。それにより、よい関係が築けていける。安定した生活が送れるよう支援をしている。	○	家族関係が深めていけるよう、引き続き家族会を開催するなどして支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話のなかで意識をし、話題にしている。入居時、馴染みの物など持ってきてもらったり、訪問は頻繁に来てくださるよう促している。	○	馴染みの場所に訪問できるよう、馴染みの物を持ってきていただく、訪問してもらうなど引き続き支援して行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努力されている。見守り観察をし職員間の連携をとっている。朝皆で掃除、散歩時、てをつなぐ、ボール投げ、リビングで利用者同士おしゃべりお茶を入れてあげる。仲の良い方と向かい合わせで席を組んだり、逆に相性の悪い方どうしならない工夫をしている。		引き続き支援して行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	面会にいたり、連絡を取ったり、している。		引き続き行う
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の引継ぎ、月1回のカンファレンス事、職員全員で話し合い、意向の把握に努めている。本人の意思を尊重し、入居時から本人の話、家族から暮らし方の希望を聞き、本人の納得できる方向できめている。	○	引き続き、対応していきたい。ボランティア、家族の協力も得て行っていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートの活用、入居時の情報や個人ファイルで認識をしている。家族訪問の時に話を伺うなどして把握している。	○	引き続き行っていく
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録簿申し送りで確認。居場所確認。表情観察変化見逃さず、1人1人の望む事を出来るだけ聞き入れるように努力している	○	引き続き、スタッフで気づきの情報交換、漫然とせず緊張感持って業務に当たる
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファで見直し検討し日常のスタッフ間の連絡・相談を大切にしている。家族に介護計画の説明、同意を得ている。	○	引き続き、介護計画作成においてチームで関わって作る事を心がける。そうする事でもっときめ細かく、掘り下げたプランが出来ると思う。また、みんなで共有していく
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年ごとに見直ししている。その間状況変化が生じれば対応している。日々見守っているスタッフ同士で申し送り、本人を理解し検討している。	○	今迄以上、介護プランの見直しと同時にそれまでの達成内容も明記する。書式も工夫する。家族との話し合いも深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、情報の共有化がされている。日常の共通記録のほか、個別の必要事項に関しても記録し、実践に生かしている(睡眠状況入浴、排泄チェック表など)。カンファレンス等でスタッフで話し合い、本人を中心にして介護計画を作成していると思う	○	記録の記入の方法など勉強していきながら見直しに生かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる話し相手、買物同行、散歩付き添い、調理手伝い、畑、病院付き添い。警察・商店街は日頃から挨拶をかわし顔見知りになっている。地区センター等へ行きカラオケ等を楽しんでいる。	○	今後も地域資源との共同を広げていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護用品、福祉用具等、相談して自立支援している。		引き続き行う
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護や認知症予防教室などについて協働している。		引き続き行う
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常にかかりつけ医と相談し、いつでも協力が得られるようになっている。訪問看護による24時間の連絡体制の導入。本人と家族の希望にそって受診している。受診は家族が基本だが、送迎ボランティアの協力も得ている。状況に応じて、職員が付き添っている。		引き続きいままで取り組んでいる事を今後も取り組んで行く

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>専門医の受診を勧め、支援をしている。</p>	○	密な連携で、変化していく認知症に対応しながら現状認識を把握し、スタッフが共有できるようしていきたい
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>24時間連絡がとれる訪問看護を受けている。毎週木曜日に日常検診にきている。その都度、意見交換を行い、相談ののってもらっている</p>		引き続き、協力、協働して行く
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>入院時より、家族・病院と連絡を密にしている。退院時は家族と一緒に退院指導を聞き、退院後の生活を安定した物になるよう努力している。</p>	○	引き続き行う
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>入居時に説明し書類に署名してもらっている。重度化した場合、その都度、関係医療機関・家族と相談している。</p>	○	すでに取り組んでいること「左記」をこれからも継続して行って行く。全職員が安心して介護できるよう、カンファレンスを丁寧に行い、方針の共有を徹底していきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>現時点の見極めを確認しそれに添って、職員と話し合い、家族・医療機関と相談している。</p>	○	すでに取り組んでいることを継続して取り組んで行く。職員を増やしたり、ボランティアの協力で職員の負担を軽減する配慮等行っていきたい
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>情報提供し、協力している。</p>		すでに取り組んでいることを継続して取り組んで行く

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日誌・個人記録等は他者に見えないところに置く。名前の記入についてもイニシャルなどにし、配慮している。その人に合わせた言葉かけをしたり、誇りをそこねないように対応している。	○ 個人情報取り扱いについては職員採用時、説明し、署名をもらっている。記録の書き方等、研修に参加し徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ゆっくりと分かりやすいことばで話す。一方的に離さない、相手の反応見ながら聞く。言葉かけにより引き出せるよう心がけている	○ 引き続き行う
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者自身の身体機能・気持ちなどを大切にし、散歩等は本人の意向に沿っている。表情見ながら少しでも笑顔が見られるように努力している。	○ 日常の中で、職員間で気付き合いながら対応して行く。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容に行きたい日に同行し行っている。2ヶ月に1度、訪問美容にきてもらっている。着衣がちぐはぐな時はさりげなく自室誘導し一緒になって直している。	引き続き行う。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備片付けはできる利用者が参加して行われている。個人差があるので可能な限り共にしている。調理は一緒にしている(野菜のキザミ・ゴマすり、盛り付け、配膳、お茶入れ)。行事などあると出前・外食・弁当なども楽しむ。	○ 引き続き支援をしていく。あまり食欲の無い利用者にも食事をたのしんでもらえるよう工夫する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	身体の状態も見ながら各人の希望が活かされている。毎日ビールを飲んでいる人もいる。たばこもリビングの換気扇の下で吸ってもらっている。	○ 引き続き、より楽しめるように尊重し支援していければ と思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の様子を見て、本人のペースに合わせて、支援をしている。	○	引き続き、支援をしていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1人1人の希望がよく聞かれている。無理強いせず本人の希望、タイミングを計っている。1対1の会話を楽しんでいる		引き続き、支援して行く。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の様子を見ながら、意思を尊重している。催眠剤の服用をしている入居者もいる。	○	引き続き、生活リズムを大切にしながら、睡眠時間が少ない利用者が安心して眠れるような工夫をしていく
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の仕事と違ってしてくださっている入居者さんもいらっしゃる。1人1人楽しんでやってくれる事をやってもらっている(掃除、洗濯物たたみ、調理、お茶入れ、花の水やりトイレ掃除、新聞紙たたみ)。歌を歌ったり、会話を楽しんだりもしている。	○	今後も、あまりいろんなことに興味を持たない利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごすための工夫。ボランティアさん等に協力して貰い楽しみ事、気晴らしの時間をつくって少しでも喜びのある日々を過ごしていただきたい支援をする。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人を尊重し見守りながら支援している。買物等は職員が同行したり、ボランティアさんと一緒にいっている。		すでにとり組んでいる事の実施
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨天以外の日には散歩が実施されている。必要に応じボランティアの協力を得て、支援している。散歩のほか、個別に買物にも出掛けている。帰宅願望ある人には対応している。	○	より外出支援の強化が出来ればと思う。ボランティアさんに協力してもらおう。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節を楽しみながら、花見(桜)、アジサイ公園に行っている。祭り等の地元の行事には積極的に参加できるよう支援している。また、家族の方と一緒に、結婚式・法事・選挙の投票・旅行・馴染みの場所に出掛けている。	○	引き続き、家族・ボランティアの協力で支援の強化をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は申し出があれば、相談室の電話が自由に使える。手紙も書いている入居者さんがいる。ポストに散歩途中に本人が投函している。年賀状を書いている方もいる。携帯電話使用の方が以前にいた。		引続き支援していく
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決まっておらず、家族や知人の都合で会いに来られている。迎える温かい雰囲気作りを心掛けている		これからも継続して行く
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	話し合いの上で拘束をしていない。	○	学習をする機会を設け、再確認をさせていきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階との通路はかぎかけていない。玄関の鍵はかけてあるが、鍵をかけることの弊害を理解しており、なるべく鍵をかけないケアに取り組んで、出来る事から実践している。家族とも相談し、改善していつている。	○	引続き検討し、改善していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守り、観察をし職員間で連絡、報告をしている。夜間のスタッフ1人では難しい時は、1Fと協力し助け合っている。また、その時々で安全策を検討し、危険を回避する努力をしている。夜勤者は携帯を所持し1Fと連絡が取れるようにしている。	○	所在や様子を常に把握する配慮をしているが 建物の構造上、死角の箇所もあるので、引続ききめ細かくチェックしていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物が置いてある物置など必要な所に鍵をつけている。適切な所に適切な物が無く、移動している時は職員が元に戻すよう注意している。	○	引続き、入居者さんの状態を把握しながら対応していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	記録をもとに伝達をし見守りをしている。入居者さんの状況に応じて、個別計画を作り、職員に周知徹底し、常に取り組んでいる。1番の課題です。何より第1に心がけている		引続き、取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを掲示し、また、通報訓練・搬送訓練・避難訓練を行っている。年間計画を作り、消防署の指導をもらいながら行っている。救急法の講習参加を義務づけし順次参加している。火元責任者をおいている。	○	年間計画に従い、引続き訓練を行う。新しい職員までの徹底をし、実施をしていく。ホーム内で、応急手当の講習を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署直通通報装置設置検中。お向かいの団地のひろばを避難訓練時の集合場所として、利用させていただいている。大家さんが建物の周りは気をつけている。	○	今後も全職員が避難訓練に参加できるよう消防署の協力を得て実践していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者さんの状態を常に把握し、連携医療機関等と連携し、家族に説明し、相談し、対応している。		すでに取り組んでいることの継続。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	情報の共有がされ対応がされている。即連絡・相談・報告できるような体制を整えている。		引続き、体調の変化や異変。利用者の体調変化の早期発見を出来るようにする
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	きちんとされている。薬が変わった時は、周知徹底させ、また入居者さんの症状の変化に注意している。		今まで取り組んできたことをこれからも継続して行く
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員・医療機関と相談し、利用者1人1人に具体的に働きかけている。水分摂取・排便チェック表の活用。食事で薬でと、細かい配慮をしている。	○	引続き、排泄のチェック。入居者さんに合わせた水分、ヨーグルト等の補給、薬の使用等、関係者と相談し対応していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きうがいとされており1人1人に支援が行われている。	○	今後入居者全員対応していきたい。プライド損ねないよう支援して行く。拒否する利用者にたいしての支援の工夫も考え実践していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が、見守り、観察、記録をし支援している。栄養状態は、医師・管理栄養士と相談して、個別対応している。		引続き行う
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	業務日誌の記録、職員間の伝達により手洗い、うがいの強化を認識し支援している。その都度、流行時に徹底し、行っている。すぐ目に入る所に掲示されており、実行されている。ケアごとにグローブを取り替えている(外出後・トイレ後・調理前の手洗いなど。外出後のうがい)。タオルの取替を担当制に、気がついた時は担当以外も取り替えるなどしている。	○	引続き徹底させる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の洗浄乾燥などきちんと行っている。検食も行っている。管理者を設け、管理、冷蔵庫の掃除日、換気扇の掃除日を設け予防している。まな板の熱湯消毒、食器乾燥、布巾の塩素での洗い食材の当日買いなどし、気をつけている。	○	既に継続していることの継続。消費期限など忘れずチェックするよう気をつける
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花などを植えて、工夫している。玄関周りの物はすべて下駄箱にに入れて利用者が安心して出入りできるようにしている		すでに継続していることの継続。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の取り入れ、年中行事の飾りつけ、花を生ける。建物の性質上、足音や不快な音がすることが多いので、入居者・職員の履物に注意し、職員の歩き方を注意している。		継続して行う
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファー、廊下にベンチを設置し、思い思いに利用できるようにしている。TV・談話を楽しんだり、一人になりたい時はベンチでくつろいでおられる。		引続き、快適な空間作りをしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の設置、趣味のもの写真を手元においてある。職員は家族や本人と相談して、各居室での衣類等整理や家具配置など快適に過ごしやすいようにしている。定期的の居室の掃除をしている。		引続き、入居者さんの状態に応じた対応をしていきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に窓の換気に努めている。起床時居室の窓明け。清掃時窓明け、台所換気扇常時作動、トイレ浴室の換気。	○	利用者の暑い寒いと言う言動に配慮する。寝る前に各部屋の冷暖房の調節等。日中夜間気を配っていく。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、各所に手摺等設置。身体機能、認知状態、に合わせて、対応している。階段口に、夜間、ついたでの設置、車椅子の置き場所など工夫している。常に見守り、入居者の現在位置の把握を行っている。	○	引続き、利用者の状態をしっかり把握しできるだけ自立して生活が送れるよう工夫する。階段があるので気をつける。必要に応じて家具の配置に工夫したり手摺り等つけていく
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	せかさずゆっくりと対応を心がけている。入居者の理解度にあわせたコミュニケーションをとおした対応をしている	○	引続き工夫していく
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに季節の花、植木鉢を置き楽しむ。建物の外回りに花を植える。玄関の利用。必要に応じて車に同乗し、スタッフ利用者共々お花を購入しに外出している。	○	引続き活用をしていく。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者さんの安全・健康管理。本人の希望、要望を大事にする。家族の思いに耳を傾ける。職員が気持ちよく働ける職場に。

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「困った時に地域住民が連帯し、助け合い、地域社会を豊かで住みよくするための民間非営利の福祉活動を行う」ことを目的とした市民運動の事業を行う法人のグループホーム。「食事作りや誕生会、季節の行事など、地域の人との交流や自然と触れ合いながら共同生活の楽しさや喜びが感じられる暮らしを支援します。」と理念が作られている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>相談室に掲示し常に目に付くようにしてある。</p>	<p>○</p> <p>合言葉、またはキャッチフレーズの言葉を作り、常に理念を日常的に話せるようにしていく。それを相談室に掲示し、今迄以上に職員、家族に浸透させていく。又、会報に常に掲載する。カンファレンス時、皆で読む。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>家族には入居時説明している。見学者、来訪者、また、他施設訪問等に理念が掲載されているパンフレットを渡し、説明している。開所時、地域住民の方に説明会を開き、またその後も老人会の要請で、説明会開催。</p>	<p>○</p> <p>地域推進会議の運営時や委託事業の協力等の中で浸透させたい。また、家族会開催時に浸透させる。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>回覧板届け、散歩・買物等毎日の生活の中で、挨拶等近隣の人たちとは出来ていると思う。頂き物したり畑の野菜のおすそ分けしたりしている。</p>	<p>○</p> <p>気軽に立寄ってもらう機会はとても少ないので、近くの老人会や同じグループホームにお願いしてお茶のみ等の交流をまず、していきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>保育園でのクリスマス会や運動会・七夕会等の招待、自治会の盆踊り、商店会のフェスティバルへ参加等入居者まじえて交流している。敬老のお祝い会には老人会の踊りの披露、理事の知り合いの方のハーモニカ演奏、また、クリスマス会には、地域の方の手品・スタッフの知り合いの尺八演奏。また、そば打ちにきてくださった理事の親戚の方もあり。大家さんや理事の知り合いから農作物を頂いたりしている。</p>	<p>○</p> <p>まずは、行事がある時、積極的に地域の方にお声掛けし、気楽に立寄れるようにする。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行政の認知症予防事業の協力の声がかかったので協力していくようになっている。また、認知症と思われる方の徘徊があった時、対応をしたことがある。しかし今までの3年間は、実際には自ホームの運営をしていくので一杯だった。	○	今後、老人会・運営推進会議・自治会・行政との繋がりを深めていって、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、法人・管理者が職員に説明し、全員が自己評価を記入している。記入した自己評価はユニット毎に改善会議を開催し、まとめをしている。	○	出された意見評価を活かし改善に取り組む。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は8月8日に第1回開催予定	○	報告や話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所を訪問して相談、また電話・FAXでの相談は、しているが行き来するほどではない。緑区の場合は、運営推進会議には行政は参加していない。地域包括支援センターのケアマネージャーがオブザーバーで出席の方向。	○	横浜市グループホーム連絡会ブロック会で相談をしていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人理事長、事務局長、管理者、ケアマネージャーが研修等に参加している。家族の相談に乗る、又家族に相談窓口・相談日の紹介をしている。また、パンフレットを家族に紹介して制度をお知らせしている。	○	職員や家族に知らせ、学ぶ機会を作る
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日中は常に職員全員が入居者にかかわっているので防止できていると思う。夜間も2名なので防止できていると思う。	○	今後は、改めて「法」を学ぶ機会を設けて、周知徹底していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入居時、退去時、必ず、説明し、納得してもらっている。	引き続き行う。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	その都度、相談室で話を聞き対応している。その時の状況に適した相談役を決め、ケアマネジャー・職員・管理者・理事が当たっている。	引き続き行う。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	通信、個人別のお手紙で毎月1回利用者の生活を報告。又、来訪時やその都度、必要な時に連絡し、報告している。	引き続き行う。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	入居時、苦情相談窓口と担当の紹介をしている。家族会時や来訪時など話を聞く機会を設けている。内容は記録し、対策を話し合っている。	○ 引き続き行う
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	法人理事長、事務局長、管理者は毎月の職場・法人合同会議に出席しそして事務局長、管理者は毎月のカンファレンスに出席し、職員の意見提案を聞く機会がある、	○ 聞く機会があることを職員全員に周知徹底させ、議題に毎回載せ、今まで以上に職員の意見を反映させていく、
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	管理者・主任が職員と相談しながら勤務時間等についてはお互いに助け合い協力しあっている。入居者さんの入居時・重篤化した時、また新職員の採用時などその時々に応じて、日勤帯4人体制・夜勤2人体制等調整している。	○ 努力しても対応困難時は、調理、傾聴、移動、同行ボランティアの協力を受けているが、ボランティアの今以上の協力を増やしていく。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	利用者へのダメージを防ぐ配慮し、異動は、全く無いとは言えないが「しない」を基本にしている。離職を防ぐよう、法人で労働条件検討委員会を設置し検討し、実施している。	○ 職員・管理者が気持ちよく働けるように、職場づくりを引き続き現在の機関を有効活用し、努力していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人に対しては、日常不安なく仕事ができるよう、現場研修期間を設けている。その際、質問にはその場で即答し、安心してもらっている。また、各資料等配布し勉強してもらっている。研修の参加も進めている。勉強会を不定期に開催。研修に積極的に参加している職員も複数いる。スキルアップの向上に努めている。</p>	<p>○</p> <p>計画的な研修と現場の必要度に合致して研修に取り組みたい。職員に偏りがないようにしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>横浜市グループホーム連絡会・ブロック会等には必ず出席。また、お互いのホーム見学等、施設長間での交流も積極的にしよう努力している。</p>	<p>○</p> <p>引続き行う</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩時間の確保、「こころの相談室」の掲示、歓送迎会・親睦会を開く。有休が希望どりに取れる体制づくりに努力している。</p>	<p>○</p> <p>希望どりに有休が取れるスタッフ体制をとる。また、長期休暇が取れるように、職員間で協力し合っていく。法人・管理者はいつでも相談室や話を聞く体制であることを表明して行く。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の特技・資格・興味・等活かし、責任を持った仕事を持つ事により向上心につながっていく仕事が出来よう配慮していると思う。</p>	<p>○</p> <p>引続き努力する</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時、本人・関係者から詳しく聞き、情報を集める。必ず、ホームに見学に来ていただいたり、相談者の住まいを訪問している。センター方式のシートを活用して、受け入れの体制を整えている。受け入れまで職員に情報の共有を図り、職員全員であたたかく迎え、話を良く聞きひとつひとつ不安をとりのぞき安心できるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>引続き行う</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>必ずホームに来ていただいて見学し、相談を受けている。また、担当ケアマネと連絡を取り合い安心して入所できる配慮をしている。</p>	<p>○</p> <p>引続き行う</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームを選んでいただいた経過等をお聞きしながら、対応している		引続き同様に行う
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状況に応じて、家族に泊まっていたり、訪問してもらったりと家族と相談し、落ち着いていただく努力をしている。また、入居前のケアマネージャーと相談している。サービスの意識というのではなく、自然体で馴染めるよう職員全員が心がけている		引続き同様に行う
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員から、もっと早くこの仕事につけば良かった、仕事が楽しい、救われた、入居者さんは自分の親より幸せ、などの声が聞かれるので、関係が築かれてきていると思う。	○	職員・入居者さん共に一丸となって楽しい生活の場であることを今まで以上に入居者さんに理解してもらう努力をしていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者さんを職員・家族が協力して支える事が出来るよう、生活の様子が常に分かるよう情報を共有している。ホームへ面会・病院への受診・買い物・お誕生会・行事への参加など声かけし、生活を共にする機会を作っている。	○	行事への参加の機会を増やす、また家族会を活発にしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人が安定した生活をホームで送られ、その事により、家族も安心される。それにより、良い関係が築けていかれる。安定した生活がおくれる支援をしている。	○	家族関係が深めていかれるよう、引続き家族会を開催するなどして支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、馴染みの物などもって来てもらったり、訪問は頻繁に来てくださるよう促している。	○	訪問が途切れないよう、声をかけたり、馴染みの物が入居後も見つければその都度相談し、持ち込んでもらう。馴染みの場所へ行かれる配慮をしていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員で、話をしたり、歌を歌ったり、誕生祝いをしたり、努めている。また、その方の出番を見つけて、調理・草取り・新聞たたみ・洗濯物たたみ、掃除等々、仕事をしていただいている。体の弱い入居者さんの見守りをしてくださる方もあり。また、その場を離れたほうが良い時は、席を移動していただいている。職員に入居者が何でも話せるよう信頼関係を築いている。	○	お互いに人間関係が、不穏にならず良好な状態でいられるよう、職員、家族、連携している機関と相談して支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>面会にいたり連絡をしたり、又、連絡してもらい、相談に応じている。</p>	<p>引続き行う</p>
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日の引継ぎ、月1回のカンファ時、職員全員で話し合い意向の把握に努めている。本人の意思を尊重し、入居時から本人の話、家族から暮らし方の希望を聞き、本人の納得できる方向で決めている。</p>	<p>○</p> <p>その都度その状況にあわせた方法や改善策をみんなで話し合い協力しあう。外に出たい、買物をしたいという希望が多いのでお買物ボランティアを組織し月1、2回でもかなえられるようにしていきたい</p>
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に家族・関係者に協力していただき、センター方式シートの活用、その後も活用している。入居後も家族等に話を聞く努力をしている。</p>	<p>同上</p>
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々暮らしの中で健康状態に合わせた行動が取れるよう配慮している。個人記録・必要な記録や引継ぎ、カンファレンスなどで把握し努めている。</p>	<p>左に同じ</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人がいかに心地よく楽しくらせるか念頭において、無理のない計画を立てる。職員全員が当たれるよう担当制にしている。カンファレンスをしている。</p>	<p>○</p> <p>カンファレンスを充実させる</p>
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々生活が変化するように状況により、職員・家族と相談し、見直しを検討している</p>	<p>左に同じ</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々個々の記録をその日の日勤者が、記入する。それにより気付かなかったことなどより細やかな情報を得ることが出来、介護に生かしている。カンファレンスなどで話あって実践している。きずきや工夫については日々即、実践できるものについてはすぐ行い、内容によってはカンファレンスで全員の意見をだしあい取り決めている</p>	○	記録記入の仕方の講習会に参加し、スキルアップする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>手助けが必要な時はボランティアさんに依頼し、時には有料になる事もある。警察、消防、地域ケアプラザの人に協力してもらっている。輪を広げつつある。</p>	○	今後も地域資源との協働を広げていきたい。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>介護用品、福祉用具等、相談して、自立支援をしている。</p>		引続き行う
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>権利擁護や認知症予防教室などについて協働している。</p>		引続き行う
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>常にかかりつけ医と相談いつでも協力が得られるようになっている。訪問看護による24時間の医療連絡体制の導入。本人の希望と家族の方の希望にそって受診している。受診は家族が基本だが、送迎ボランティアの協力も得ている。状況に応じて、職員が付き添いしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>専門医の受診を勧め、入居者の支援をしている。</p>	○	認知症専門医と密な連携で変化して行く認知症に対応しながら現状認識をきちんと把握しスタッフが共有できるようにしていきたい
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>かかりつけ医の看護師に連絡を密にとり、いつでも相談できるようにしている。また、訪問看護の方が来ている(週1回)。訪問看護師さんには時間外に相談している(24時間対応になっている)</p>		訪看がある事によりいつでも病状をみていただいたり質問が出来る状態にある
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>入院時より家族・病院と連絡を取っている。また、退院時には家族と一緒に退院指導を聞き、退院後の生活を安定したものになるよう努力している。</p>		引続き行う
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>入居時に説明書類に署名してもらっている。重度化した場合、その都度、関係医療機関・家族と相談している。</p>	○	全職員が安心して介護できるよう、カンファレンスを丁寧に、方針の共有を徹底していきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>現時点の見極めを確認しそれに沿って、職員と話し合い、家族・医療機関と相談している。</p>	○	重度で寝たきり、終末期の方が多くなるに従い、日常の仕事の量が増え、忙しく、精神的にも重圧になってくるので職員を増やしたりボランティアの方の助けが必要になってくる。事業所としてどこまで出来どこからはできないのかの方針をきちんとだし家族と話し合い本人や家族が安心して生活できるようにしていきたい
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>情報提供し、協力している。</p>		引続き行う

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日誌や個人記録等は他者に見えないところに置く。名前記入についても、イニシャル等にし、配慮している。その人に合わせた言葉かけをしたり、誇りを損ねないように対応している。	○ 記録の書き方の研修をしていき、徹底していきたい。個人情報保護については職員採用時、説明し、サインしてもらっている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	日常の中で、本人の話を良く聞きどうしたら良いか一緒に考え援助している。自己の意思にそって生活ができるよう支援している。	○ お話を聞く時間を作ったり、入居者さんのそばにいたり等、意識的に本人の希望や思いを表現できるように支援をしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の健康状態、天候などを考え、無理のない様本人の希望に添って支援している。	○ 引き続き、本人の意思を尊重した生活を送れるよう支援していきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1度美容師。外出が難しいので訪問制にしている。汚れてしまった時などは着替えてもらうようにしている	引き続き支援していく
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々により食事の量を考え、食べやすく小さくきつたり柔らかく煮たり、とろみをつけたりしている。目で楽しめるよう工夫して作っている。出来るところを生かして一緒に準備、食事作り、片付けを行っている。	○ さらに、管理栄養士さんにその都度相談し、楽しく食事が出来るよう工夫する引き続き、個々に出来る仕事を手助けしながら準備後片付け等を支援する
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医者・管理栄養士と相談し、健康状態に合わせて配慮している。飲物は自由に飲んでいる、お酒は本人、医者と相談し飲み方は決めている。、同じ食べ物をとり1人1人の選択制にはなっていない。お菓子を買うに行くなどの支援は行っている。現在たばこを吸っている入居者はいないが、過去、台所の換気扇の下で、食後等吸って折られた入居者さんはいました。	引き続き支援していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	気持ちよく生活できるように失敗の多い人には、排泄パターンを周知し、さりげない誘導や失敗しないよう支援している。便で汚れたものはすぐ取り去り気持ちよく過ごせるよう、シャワーでよく洗い流す等している。	○	便で汚れたものはすぐ取り去り気持ちよく過ごせるよう、シャワーでよく洗い流す等している
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員が1人で入ることが出来ないため個々にあわせ、介助をしながら入浴を楽しむ。無理強いはいしない。一对一の会話の場になっている。希望がないので全員同じ回数入浴できるよう順番にしている		引き続き、いつでも気持ちよく入浴できるよう健康状態にあわせて勧めていく
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ベット周りの清潔に注意し、ゆったりと安眠できるよう生活のリズムを削っている。睡眠パターンを探り適時に入眠している。日中の休息も本人の体調に合わせてしていただいている。	○	引き続き、疲れた時はいつでも自由にベットに横になり休息を取れるようにし、布団を干し気持ちよい寝つきが得られるようにしていく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	スタッフと協力しあいながら、庭の草取り・洗濯物たたみ・食事の手伝い・ボール投げ・散歩・等行っている。全体として体力・気力ともに低下がみられてきて以前の喜び、楽しみにも1部変化があり少ないなかでも皆で楽しめる百人一首・歌を行っている。	○	楽しみ・気晴らしをみつけていく支援を強めていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使わなくてもお金を持つ事により安心感があり、個々にあわせた支援をしている。買物に行きたい場合はスタッフやボランティアと一緒にいる。		引き続き支援して行く
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族・ボランティアの支援のもと自由に外出している。日常は、スタッフやボランティアと散歩に出掛けている。	○	ますます、積極的にしていき。家族等やボランティアや他の方々の協力を得て実行していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	車を使ってアジサイ・こいのぼり・桜を見にいったりしている。催し、お花見・旅行・お墓参り・結婚式など家族の方と出掛け人もいらっしやいます。	○	家族会を活性化させ、ご家族の家に泊まってこれるような機会をつくってあげたり、買物や食事に行ったりということをもっと積極的に働きかけていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと申し出のある方にはおかけしてもらっている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の都合の良い時間帯で来訪してもらっている。訪問者については居室またはリビングでゆっくりお話を出来るよう心掛けている	○	引き続き、気軽に立寄れる様声かけし訪問しやすい支援をする。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に見守りで介護をし、身体拘束をしない方法で安全を計る	○	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を職員全員に再確認させていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の草取り時、散歩時、ごみすて時、換気時、等できる時には開けるようにしているが、まだ、ほとんど鍵をしている状態である。	○	個人個人の状況により家の周りを自由に出来るようにしているが2Fとの関係上現時点では難しい。今ののどかの皆さんの様子を見てると玄関の鍵をかけなくてと良いように思われる。実際には玄関にかぎをかけている。課題として検討していきたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	誰が何処にいるか様子を把握し安全に配慮している。スタッフの配置に気をつけている。夜は巡回し見守り。夜勤者は携帯を所持し、行動している。		引続き、安全確認を徹底していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常的に使う物、はさみ・包丁などスタッフが見守りしている。危険な物は、他に変わるものがあれば変えている。1人1人の状態に対応した物品の保管管理をしている		引続き取り組んでいきたい
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	専門知識を身につける指導している。転倒・窒息・誤薬、行方不明などは勤務において第1の努めであるため安全第1に取り組んでいる。ヒヤリハット報告をし、予防に取り組んでいる。	○	さらに、徹底を図っていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>マニュアルを掲示し、また、通報訓練、搬送訓練、避難訓練を行っている。年間計画を作り、消防署に指導をもらいながら行っている。救急法当の講習を義務づけている1F2Fにそれぞれ火元責任者をおいている。</p>	<p>○</p> <p>年間計画に従い、訓練を引続き行う。救急法の講習会の参加を全職員まで行き渡るようにしていく特に新人職員への徹底を図る。ホーム内で応急手当等の講習会を行う。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署直通通報装置設置検討中。お向かいの団地のひろばを避難訓練時の集合場所として、利用させていただいている。また、上記のように、消防署の協力で、搬送訓練を行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も職員全員が避難訓練に参加できるよう消防署との協力を得て実践していきたい。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>転倒、入退院時、急変時等その都度家族に説明、ホームでの暮らしを話し合っている。また、医療機関とも相談している。</p>	<p>○</p> <p>引続き、丁寧に話し合っていきたい。</p>
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>バイタルチェックしスタッフ全員が個々の健康管理に目配りし心配りをし家庭との連絡を密にしている。申し送り等により情報を共有している。排泄チェック表等記入し、平常との違いに気づいた場合、管理者・主任に報告、対応している。週1回訪問看護師さん、月2回内科医、歯科医往診。</p>	<p>○</p> <p>引続き、全員に細心の注意をし、医師・栄養士・家族との連携プレイをとり1日も早く回復し体力をつけるよう注いでいく。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方箋ファイルを作り活用している。薬が変わったとき等は特に注意し本人にも伝えている。</p>	<p>○</p> <p>引続き、服薬支援と症状の変化の確認をしていく。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>薬や食物などにより気持ちの良い排便ができるようにしている。適度な運動と乳酸製品を摂取。排便チェック、水分摂取、食事の献立には野菜を多く取り入れている</p>	<p>○</p> <p>引続き、医師、栄養士と相談していき、予防に取り組んでいく。</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>食後の歯磨き、義歯の清掃、歯科医による検査・相談。口腔リハビリを実施。1人1人に合わせた口腔ケアをしている</p>	<p>○</p> <p>拒否のある入居者さんにも、ケアの工夫、知恵を出し合って、清潔保持をしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事の量、嚥下状態、体力に配慮し、身体の調子にあわせた食事量・栄養バランス・調理法にしている。水分の補給に小まめにしている。不足気味の方には、水分摂取チェック表を記入し、摂取量を把握している。管理栄養士、医師の協力を得ている。	○	引続き、その日の状況にあわせて献立を変更するなど常に入居者全体の健康に気を配りながら行う
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いはもとより外出から帰った時のうがいを実行している。下痢時・インフルエンザの流行時のマニュアルを作り、徹底させている。またケア時はビニール手袋着用、その後手洗い消毒の徹底。トイレ浴室など掃除消毒している。トイレ掃除・介助時専用エプロンの着用。	○	引続き、左記の内容の徹底と、汚物のついたものは個々に分類し消毒殺菌の徹底を図る。汚物のついた清拭等は処分する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の繰り返しにより気持ちが緩まないよう全員で注意を払い消毒をこまめにし、食材には火を通すようにする。食品安全責任者の専任を置いて管理している。賞味期限、開封後保管に注意している。食器・調理器具・まな板・布巾等の殺菌・消毒。毎日の台所の掃除業務のマニュアル化、冷蔵庫・換気扇の掃除日決めている。調理用エプロン着用。	○	引続き、徹底を図る。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花等を植えて工夫している。玄関にベンチ、手摺をつけている玄関をガラス扉にしている	○	今まで以上に安心して出入りできる玄関まわりを工夫する検討をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造のせいか音が響いてびっくりする時があるので職員・入居者の履物に気を使っている。また、声・音に気を使ってケアしている。季節を感じ、和む雰囲気づくりをし、庭から花をつんで飾ったりしている。クリスマスにはツリー、リース、七夕飾り、正月飾り雛飾りをしている。夜は早めに、カーテンを閉めている。	○	リビングの照明をもっと明るくする(蛍光灯以外のもの)。スタッフだけでは、年末・夏に網戸・窓ガラスなど大掃除をしているが、掃除がなかなか行き届かないので、ボランティア等の皆さんの協力で、きれいにしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置、めいめいの相性にあった席替えの工夫をしている。ソファをリビングに置き、思い思いに過ごせるよう工夫をしている。廊下にベンチ設置している。	○	引続き検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族等の写真や思い出の品などを置く。持ち込み自由なので本人の好きなもの、使い慣れた物を持ってきていただいている掃除をしきれいな居室を心がけている。	○	引続き、安心の居場所を作る
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓をこまめに開け室内の空気が新鮮であるようにしている。床暖房・エアコンを入れ、調節している。	○	中央トイレの換気を改善していきたい
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下・玄関・非常口・洗面所など手摺りをつけたり、椅子をおいたり、安全に自分で行動できるよう配慮している。バリアフリー。居室はその方の安全を配慮した家具に配置、ベットにしている。	○	トイレ・浴室等、再度、安全の確認をし、改善していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人1人に合わせた言葉かけ、身振り、手振り、また、誘導し、一緒に行動し、混乱や不安をなくすケアを心がけ、自立して暮らせるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花や野菜などを植えている。自由に収穫できる。草取りをしてもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者さんが低下してきているので、特に体調管理・食事療法・衛生管理には気をつけている。